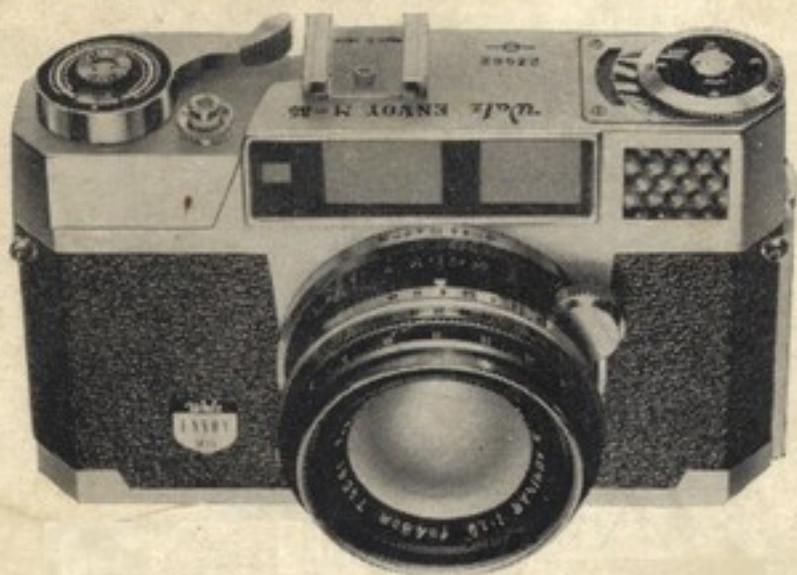


S-KOMINAR LENS 48mm f:1.9 (SEVEN-ELEMENT)



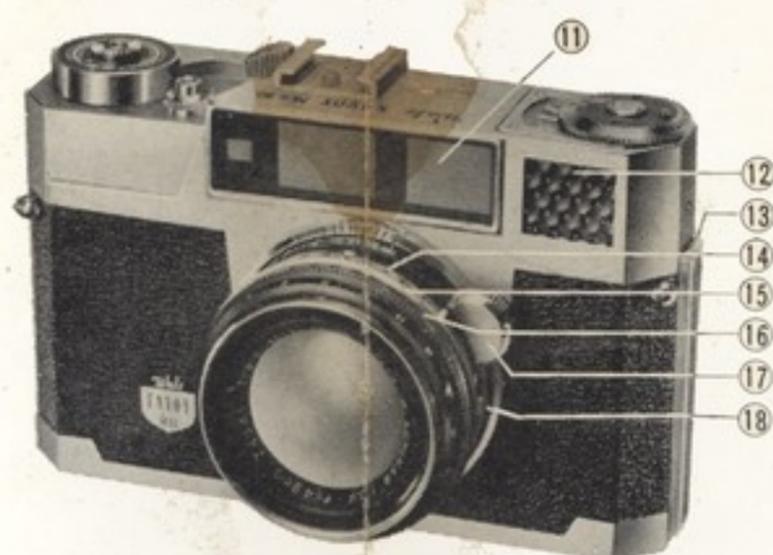
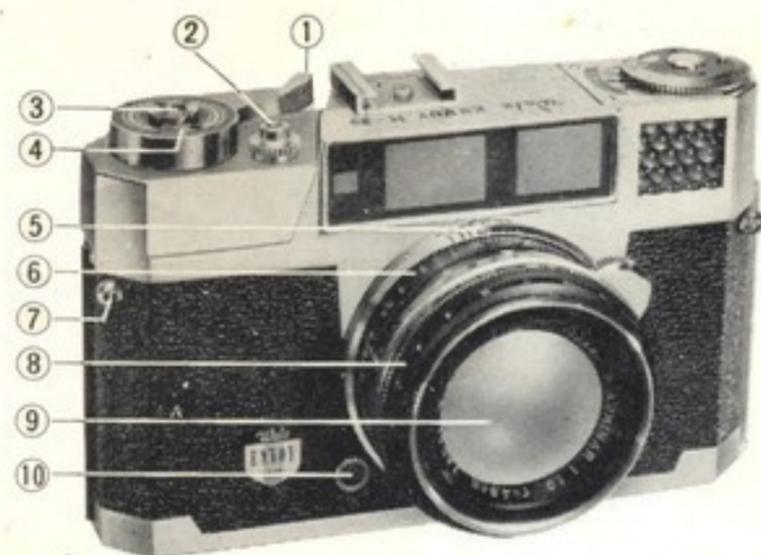
WALZ ENVOY **M-1.9**

ENVOY

ワルツ・エンボイ

ENVOY MI9

高級カメラアクセサリ総合メーカーとして30余年の歴史と経験を持つワルツはカメラ部門においても、すでに20種に近いカメラを皆様の御手元に送り出しております。このように永い経験と優秀な技術陣、最新機械設備を誇るワルツが、此度新しく35mmカメラの利点を遺憾なく発揮し、多くの方に御手軽に愛用していただけるカメラとしてワルツ・エンボイM1.9を完成いたしました。最新光学ガラスを使用した大口径SコミナーF1.9レンズは素晴らしい解像力と描写力を誇り、新鋭ライトバリューステム・コバルSVLシャッターは、電気露出計(LV・メーター)の内蔵により一段と機能を倍加し、露出決定の煩わしさを解消しました。その他軽快なワンストロークレバー捲上げセルフコッキング方式、確実なパララックス自動匡正ブライツフレームシステム連動距離計など、35mmカメラとして最も優秀な特色を発揮いたします。ワルツ・エンボイM1.9はどんな人が使っても、又どんな被写体を写しても正しく且つ確実に写すことが出来る35mmカメラのスタンダード版であります。あなたの感覚と技術を、このワルツ・エンボイM1.9にたくして撮影の楽しさを十分に味わっていただき、適切な取扱いと御手入れによって永く良き愛機として御使用下さいませよう御願い致します。



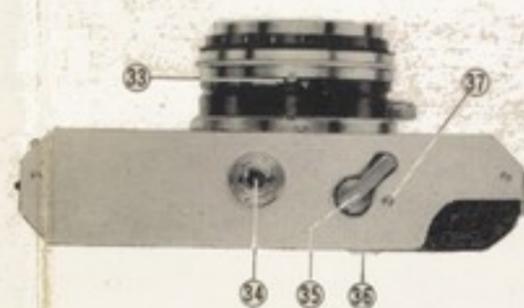
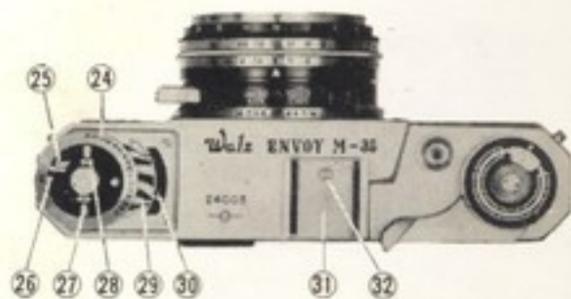
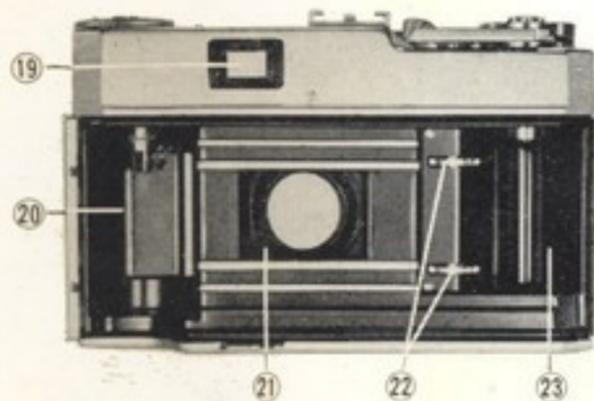
WALZ ENVOY M 1.9

各部の名称

1. シャッターセット兼
フィルム捲上げレバー
2. シャッターボタン
3. フィルム・カウンターつまみ
4. フィルム・カウンター窓
5. 被写界深度目盛
6. 距離目盛
7. 吊環金具
8. ライトバリュウ・ダイヤル
9. レンズ
10. シンクロ接点
11. トリミングファインダー
12. 露出計受光窓

13. 裏蓋開閉レバー
14. 絞りダイヤル
15. ローレット環
16. シャッター・スピード・ダイヤル
17. 距離調節レバー
18. MX接点切換レバー
19. ファインダー接眼窓
20. バトローネ収容室
21. 内面反射防止枠
22. スプロケット
23. フィルム捲取りスプール
24. ライトバリュウ目盛盤
25. アンブ用指標

26. 照度指標
27. ASA表示窓
28. DIN表示窓
29. 照度目盛
30. 露出計指針
31. アクセサリー・シュー
32. アンブ・ターミナル
33. セルフタイマー・セットレバー
34. 三脚取付け孔
35. フィルム捲戻しクランク
36. 捲戻しレバー
37. フィルム進行表示記号



性能及びデータ

レンズ

S コミナー F1.9 48mm 3群7枚構成

シャッター

コパルSVL (ライトバリュウシステム)

シンクロMX接点切換、セルフタイマー付

シャッタースピード

B・1・2・4・8・15・30・60・125・250・500

・ (等間隔倍数系列・クリックストップ)

絞り目盛

1.9, 2.8, 4, 5.6, 8, 11, 16 (等間隔絞り)

距離目盛

0.8, 1, 1.2, 1.5, 2, 3, 5, 10, ∞ (メートル)

2.7, 3, 3.5, 4, 7, 10, 15, 30, ∞ (フット)

焦点調節

ヘリコイド直進連動距離計、有効基線長27mm

距離計

二重像合致式一眼連動距離計

ファインダー

逆ガリレオ・ブライツフレームシステム

倍率0.6倍、パララックス自動匡正装置付

フィルム捲上げ

ワンストロークレバー捲上げ180°

セルフコッキング方式

順算式フィルムカウンター装置

フィルム捲戻し

カメラ底部のクランクを起せばすぐ捲戻せ

る自動式

内蔵露出計

方式 反射光測定方式 LV直読方式

測定範囲 ASA 100にて LV 7~17

アンブ使用 LV 5~15

完全二重露出防止 内面反射防止の万全機構

大きさ

長さ14.0×高さ8.7×巾6.5 (cm)

重量

800 g

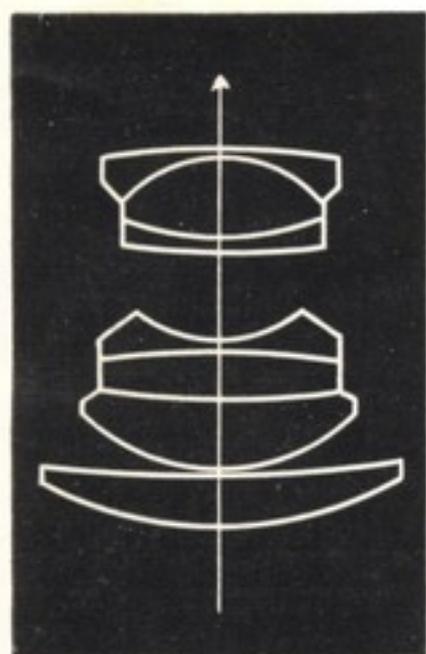
フィルター

46mm (ネジ込)

フード

46mm (ネジ込)

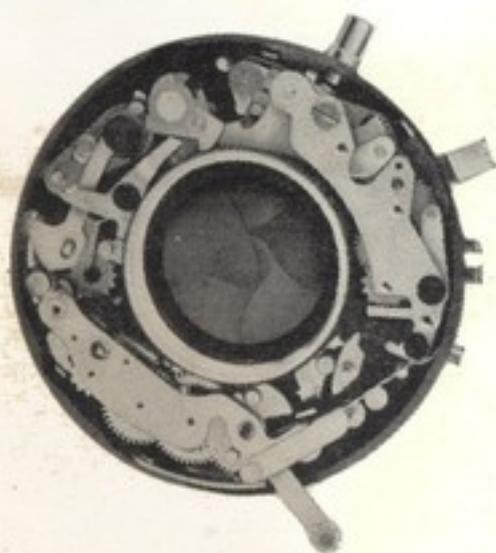
レンズ・Sコミナー F1.9 48^{m/m}



SコミナーF1.9・48^{m/m}レンズは、最新光学ガラスを使用した3群7枚構成よりなる新しいレンズで大口径レンズの欠点とされていた球面収差、コマ収差、色収差非点収差、像の歪曲などを最小限に矯正し、その驚異的な解像力は、中心部はもちろん周辺部においても非常にすぐれた威力を発揮し、第一級レンズとしての名声を確保しました。

加えて独特な完全アンバーコーテッドが施されていますのでカラー撮影においては正しい色彩が再現され、優れた色調を得ることができます。

シャッター・コバルSVL



コバルSVLシャッターは、一回の操作で絞りとシャッターが同時に決まり、適正露出が得られる超速写性デフレンシャル（復差動）機構を取り入れたもので、カメラメカニズムに新次元を生んだ新しいシステムとしてカメラ界の話題を呼んでいます。

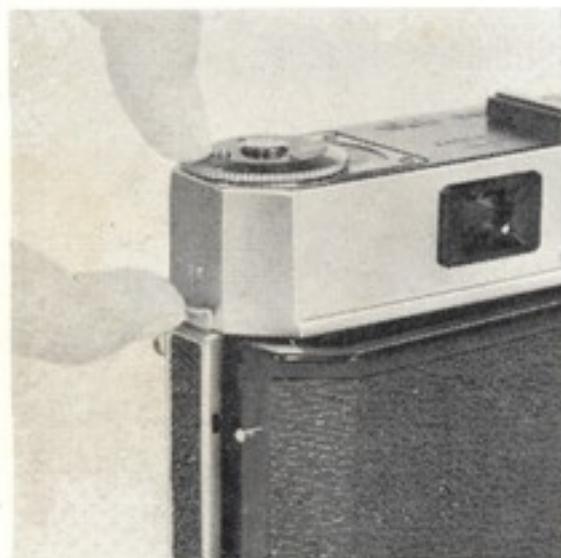
又露出時間が等間隔倍数系列になっており従来のシャッターと比較してより合理的な露出が可能で絞りも等間隔絞りでも中間値が使用できます。その他MX切換接点、セルフタイマーが内蔵されており、その合理性と正確さは在来のシャッターを一変させた最新型高性能シャッターです。



ワルツ・エンボイ M1.9 操作方法

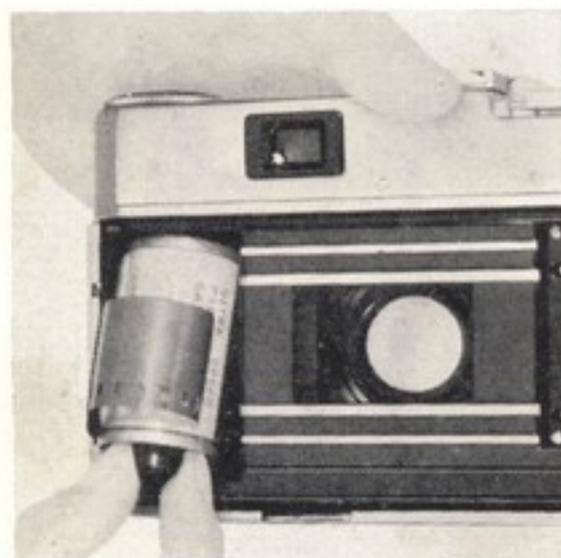
フィルムの入れ方

ワルツ・エンボイ M1.9にはパトローネ入り（20枚又は36枚撮り）フィルムを使用します。フィルムの出し入れは、必ず直射日光をさけて自分の影か物陰などを利用して下さい。



第 1 図

1. 裏蓋開閉レバーを引き出して裏蓋を開きます。（第1図）

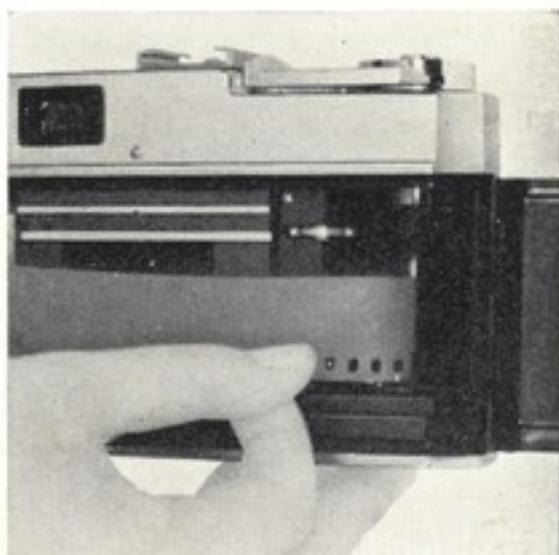


第 2 図

2. 裏蓋をいっぱいを開き、パトローネの軸の短い方を上部捲戻し軸に完全に挿入するようにしてパトローネを入れます。（第2図）

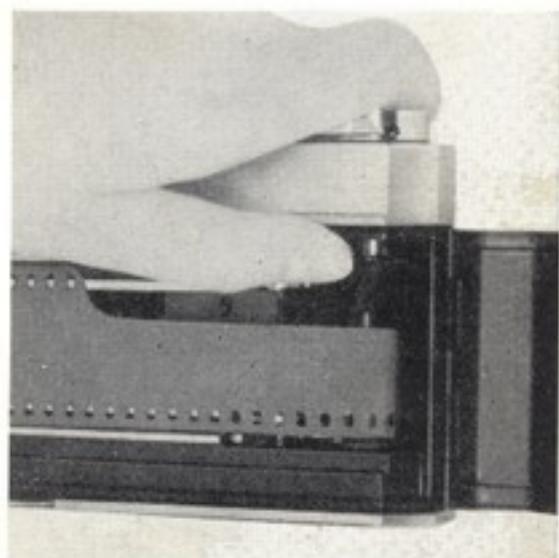
3. フィルムの先端を捲取りスプールの溝に充分差し込みます。もし差し込み溝が適当な位置にない時には捲取軸を指で廻して差し込み易い位置に動かします。捲取り軸が途中で止まった時にはシャッターボタンを押せば廻ります。

(第3図)



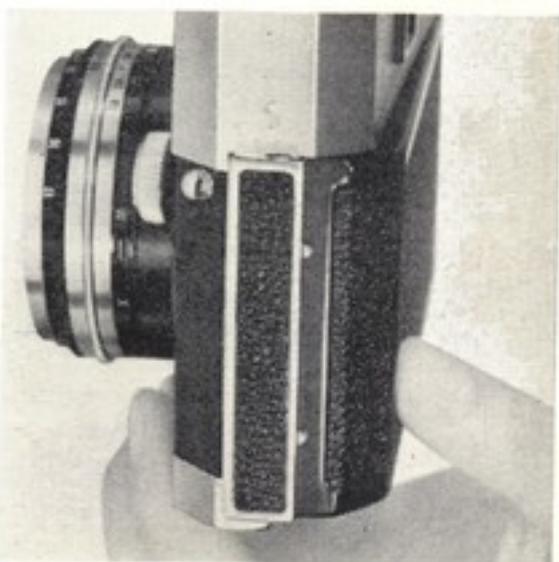
第3図

4. 捲取りスプールを指先で廻しながらフィルムのパーフオリジョン（小穴）をスプロケットの歯車に正しくかみ合わせ、フィルムを一回転か半回転捲取りスプールに巻きつけます。(第4図)

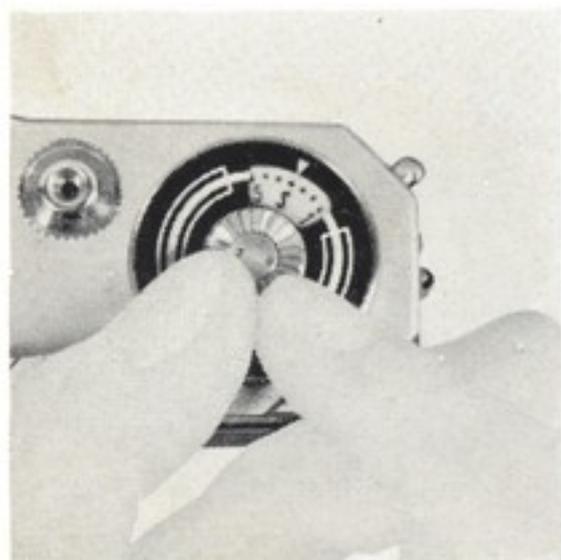


第4図

5. 裏蓋を閉じると、開閉レバーは自動的にかかります。これで完全にフィルムがカメラ内に装填されました。(第5図)



第5図



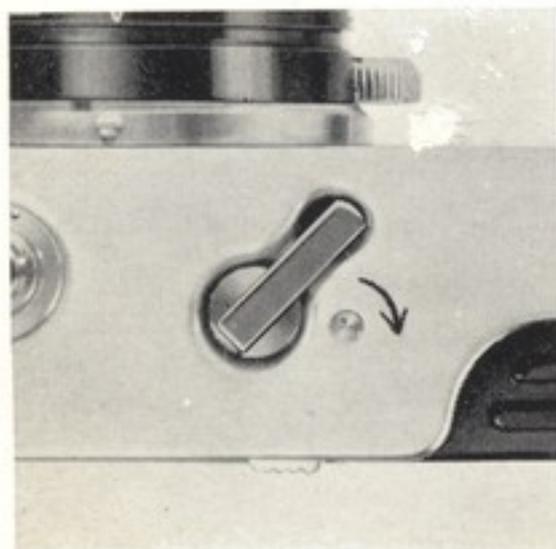
第 6 図

6. フィルムカウンターのつまみを廻して S (出発点) を指標に合わせます。
(第 6 図)



第 7 図

7. 二回空シャッターを切り、三度目の捲上げレバーを廻すと、カウンターが 1 のところにきます。これで撮影できる位置までフィルムは送られているわけです。
(第 7 図)



第 8 図

8. レバーを捲上げる際、カメラ底部にある捲戻しレバーの右部の赤印が矢印の方向に廻転することを確認して下さい。赤印が廻転しない場合には捲戻しクラックを矢印の方向に廻してカメラ内のフィルムをしめつけて下さい。捲上げレバーはとまるまで完全に捲上げて下さい。
(第 8 図)



露 出 の 決 定

絞りとシャッターのスピードによって、そのフィルムへの露出が決まります。光量の多すぎたのは露出過度、少なすぎたのは露出不足といつてもいずれも良い写真を期待することは出来ません。

つまり美しい写真の第一要素は、適切な露出でなければなりません。

ワルツ・エンボイ M1.9 には適正露出を素早く得るために今までのシャッターのように絞りとシャッター速度を別々に合わせるといふ複雑さのない一動作で適正露出を得ることが出来る新機構のライトバリューステムを採用し、又適正なライトバリューステムを指示する L V メーターが内蔵されています。

ライトバリューステム (L V) とは、ある光線状態の時に、適正露出を得るために必要な絞りとシャッター速度との関係をも一つの定数 (露出指数) 即ち 1・2・3……16・17 と表したもので、簡易露出決定法ともいふべき新しい機構です。

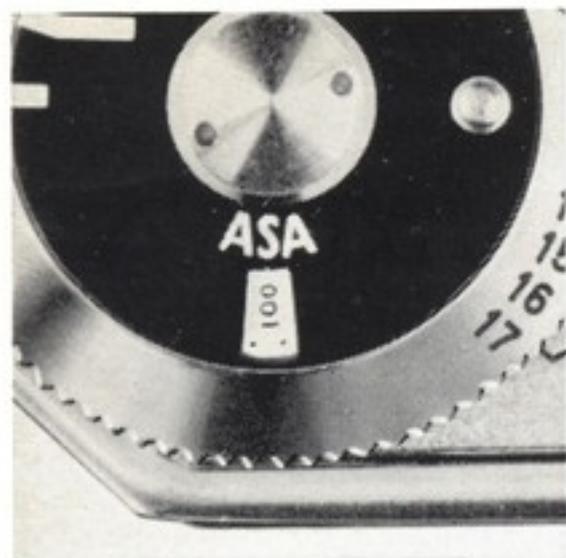
では、いったい適正なライトバリューステムは、どうしたら確実に得られるのでしょうか？ それは簡単です。カメラに内蔵された L V メーターを被写体に向ければ、被写体の明るさに応じて、光電池の作用でメーターの針が動き自動的に適正なライトバリューステムを指示しますから、どんな初心者の方でも正しい使い方さえ覚えれば常に美しい写真を撮ることが出来ます。では露出計の使い方を説明いたしましょう。

● 露 出 計 の 使 い 方

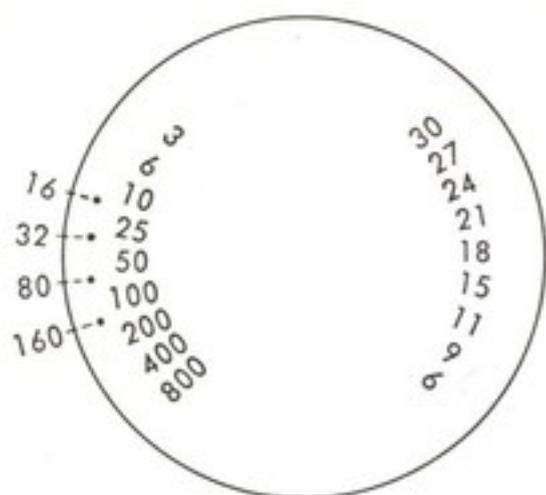
ワルツ・エンボイ M1.9 に内蔵された電気露出計は、ライトバリューステムの採用により、最も簡単な操作で誰にでも使用できます。この電気露出計は反射光式といい、被写体から反射する光の明るさを測定しますのでカメラに内蔵された受光窓を被写体に向けて測定します。

メーターの ASA (又は DIN) 表示窓に御使用のフィルム感光度を合わせます。写真は ASA 100 の場合です。 (第 9 図)

ASA 中間目盛板

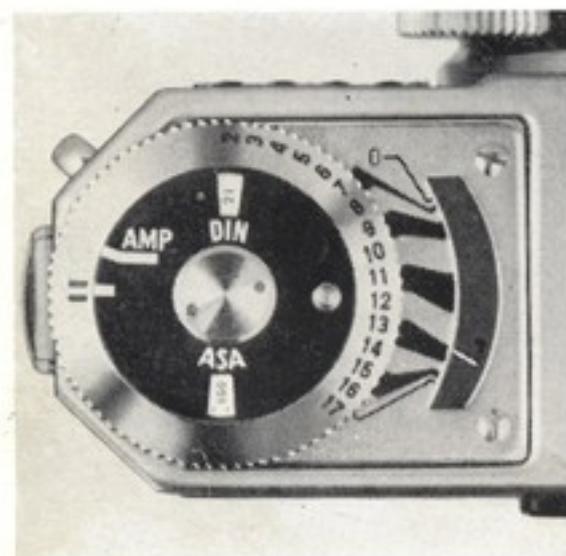


第 9 図



次に露出計ダイヤル上の **||** 印を照度指標に合わせ、露出計の受光窓を正しく被写体に向けます。指標がふれたところの照度目盛に合致した数字が適正なLV定数です。このLV定数をカメラのライトバリュースケールに合わせれば適正な露出が得られるわけです。

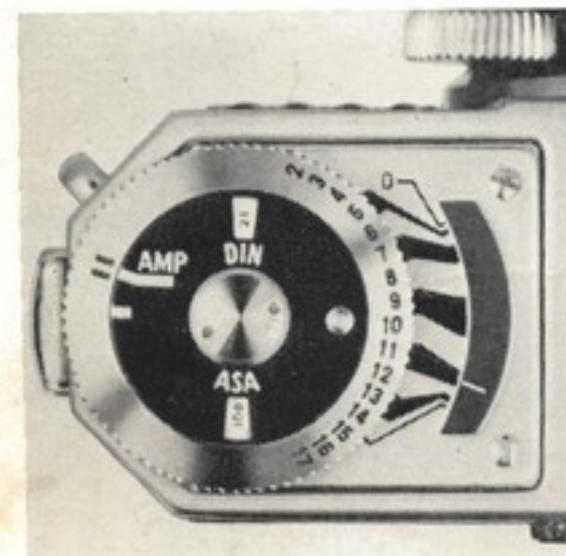
写真はLV13の場合です。 (第10図)



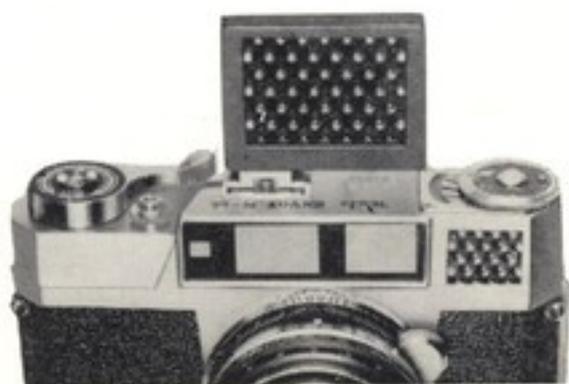
第 10 図

夜・室内等光が暗くLVメーターの指針のふれないような暗部撮影の測定の場合にはアンプ（増幅器）を使用します。アンプはカメラのアクセサリ・クリップに差し込み装着します。この時 **||** 記号はアンプ用記号に合わせて下さい。後は一般測定法と全く同じです。

(第11・12図)



第 11 図



第 12 図

反射光測定による実際の測定に際しての 露出計の正しい使い方

1. 平均測光法 (カメラポジション法)



カメラの位置から撮影位置に向って露出計を使用する方法です。この方法に適する場合は、撮影場面が大体一様な明るさの条件にあって、尚且強調すべき特定の部分を持たない場合に適した方法です。

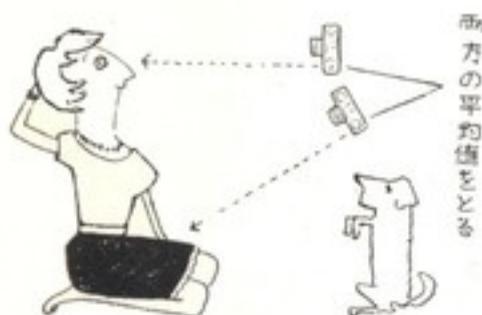
2. クローズアップ法



露出計を被写体にずっと近接して測定する方法です。これは場面の中の一部だけが画面の興味のある中心であって、他は背景その他あまり重要でない場合に利用する方法です。

露出計を用いる距離は、測定部分の大小にもよりますが、大体10~20cm程度の位置から測定部分に露出計の影を作らぬように注意して測ります。

3. 輝度範囲法



撮影場面の最も明るい部分と、反対に最も暗い部分とを測定して、場面の明暗の範囲を調べ、両者の中間の値を対象として露出を決定する方法です。これは比較的コントラストの強い場面全体に対して、正しい露出を与えたい場合に適する方法で、又階調のあるネガを作るという意味では最も正確な方法です。

● 御 注 意

1. ポートレート撮影の場合には、背景、空など周囲の余分の光が受光窓に入射しないように人物から10~20cm位に接近して、一番明るい部分と暗い部分とを測定し、その平均の数値をとればよいのです。
2. 若し、人物に近寄れない時には、自分の掌を人物の受光条件と同じにし10~20cm位の距離で代用測定します。
3. 風景撮影の場合は、露出計を被写体に向けて掌で上部を被い天空からの余分の光が入らないようにメーターを稍々下方に向けて測定します。
4. LVメーターを被写体に向けたとき、受光部の前を指等でふさがらないように注意して下さい。



シャッタースピードと絞り

ワルツ・エンボイM1.9には“露出の決定”の項に述べた如く一動作で適正露出を決定する新機構のライトバリュースystemを採用しています。LVメーターで決定した適正なライトバリューをカメラにセットすれば常に適正露出を得ることが出来ます。

しかし、私達が撮影する時被写体によっては、絞りを開いて被写体以外のものをぼかしたり、絞り込んで手前から遠方までピントをはっきりさせたり（被写界深度の項参照）又は、動いているものを撮るために、シャッタースピードを早くしたりする場合があります。このような時にコバルSVLライトバリューシャッターはどのような方法で操作したらよいか説明いたしましょう。

説明に入る前に次の表を御覧になって下さい。いろいろと数字が書いてありますが、縦がライトバリュー横がシャッタースピード、表中の数字は絞りの値になっています。

この表を御覧になるとおわかりになると思いますが、例えばライトバリュー10の時には、シャッタースピードと絞りとの関係が、 $1/4$ と16.0、 $1/8$ と11.0、 $1/15$ と8.0、 $1/30$ と5.6、 $1/60$ と4.0、 $1/125$ と2.8、 $1/250$ と1.9の場合があることがわかります。

ただ、この場合に前にも書きましたように目的とする被写体に対し、被写体そのものだけをはっきりと写し、他のものをぼかすか、又は手前から遠方までをはっきりとピントを合せる等のいろいろな条件により、ライトバリュー10でも $1/4$ と絞り16を使うか、又は $1/125$ と絞り2.8を使うかを決めればよいのです。

では、どのようにすればこのコバルSVLシャッターは、これ等の種々な条件のシャッタースピードや絞りにすることが出来るか説明しましょう。先ずカメラをお持ち下さい。一番先についているダイヤルがライトバリューのダイヤルで次にシャッタースピードダイヤル、一番後が絞りダイヤルです。

シャッター スピード ライト バリュー	B	1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500
1	1.9										
2	2.8	1.9									
3	4.0	2.8	1.9								
4	5.6	4.0	2.8	1.9							
5	8.0	5.6	4.0	2.8	1.9						
6	11.0	8.0	5.6	4.0	2.8	1.9					
7	16.0	11.0	8.0	5.6	4.0	2.8	1.9				
8		16.0	11.0	8.0	5.6	4.0	2.8	1.9			
9			16.0	11.0	8.0	5.6	4.0	2.8	1.9		
10				16.0	11.0	8.0	5.6	4.0	2.8	1.9	
11					16.0	11.0	8.0	5.6	4.0	2.8	1.9
12						16.0	11.0	8.0	5.6	4.0	2.8
13							16.0	11.0	8.0	5.6	4.0
14								16.0	11.0	8.0	5.6
15									16.0	11.0	8.0
16										16.0	11.0
17											16.0

さて、ライトバリューのダイヤルを廻して1にして下さい。その時のシャッタースピードと絞りの値は、夫々、B、1.9になります。この1から出発しましょう。ライトバリューのダイヤルを時計の針と反対の方向に回転して行くと、最初シャッターダイヤルは動かず、絞りダイヤルの

みが動き、ライトバリュウ7になった時シャッタースピードはB、絞りは16となります。今もっとダイヤルを廻して行くと、今度は絞りのダイヤルは動かずシャッタースピードダイヤルが動きます。このSVLについている最高のライトバリュウ17にした時シャッターと絞りの関係は1/500、16となります。逆に17から出発しても同じです。最初に絞りのダイヤルが動きライトバリュウ11の時1/500、1.9となり、尚ライトバリュウを小さくして行えば、今度はシャッタースピードダイヤルが動き遂に最初の1に戻りB、1.9になります。

以上がワルツ・エンボイ M1.9についているコバルSVLライトバリュウシャッターの機構です。

では、話を元に戻して、実際の場合についてやってみましょう。今写そうと思う被写体に露出を向けた時ライトバリュウが10になったといたします。

1から出発してライトバリュウ10のところにダイヤルを廻すと1/4、16となります。ただこれでよいのです。しかし、シャッタースピードが1/4では被写体が動いているものだとすると、ブレてしまいます。そこでもっと早い1/125で切りたいとします。その時にはシャッタースピードダイヤルと、絞りダイヤルとの間にあるローレット環を廻して、中央位置(△白印)に1/125を持って来ますと、絞りリングも同時に動いて2.8となります。このローレット環を廻してもライトバリュウダイヤルは動かず、10になっていることがおわかりになると思います。即ちライトバリュウ10の時には1/4、16から1/8と11.0、1/15と8.0、1/30と5.6、1/60と4.0、1/125と2.8、1/250と1.9、までのいずれの組合せの場合においても適正露出になっているわけです。

又コバルSVLはワンアクションライトバリュウシステムになっておりその方法は次の様になります。

最初に書きましたようにライトバリュウ10の時は、1/4、16です。しかし、1/125で切りたい時には、ライトバリュウダイヤルをもっと廻して中央に1/125をもって来て下さい。中央に1/125を来たなら今度はライトバリュウダイヤルを逆に廻して中央(△赤印)に10をもって来て下さい。シャッターダイヤルは動かず、絞りダイヤルのみ動いて1/125、2.8になっているのでしょう。ですから最初に説明した方法でも、この方法即ち、ライトバリュウダイヤルのみ操作する方法でもどちらでもよいのです。

以上で、コバル SVL ライトバリュースステムのシャッターの操作方法をおわかりになったことと思いますが、このライトバリュースステムを用いますと、今日の天気の場合には、シャッタースピード 1/125 絞 8 とおぼえるよりも、ライトバリュース 13 とおぼえておいた方が、シャッタースピードにしても絞りの値にしても目的とする被写体により、いろいろと、変えることが出来るわけです。よく人によっては、シャッターと絞りとを別々に決める以前の方法の方が簡単だといわれる人もありますが、むしろこのライトバリュースシステムの方が、はるかに簡単でしかも応用の範囲が広いわけがおわかりになると思います。

もっとも、コバル SVL は従来のシャッターと同じ操作もスムーズに行えます。

即ちライトバリュースを使用しない時は、ライトバリュースダイヤルを廻して希望の絞りとしシャッタースピードを組合わせ、次にローレット環を廻してその組合わせを中央の△白印の指標に合わせます。もう一つの方法としては、前述のワンアクションライトバリュースシステムと同じように先にライトバリュースダイヤルを廻して希望のシャッタースピードを中央の△白印に合わせ、次にライトバリュースダイヤルを逆に廻して絞りを合わせます。このようにコバル SVL はライトバリュースシステムではありますが従来のシャッターと同じような操作も簡単に出来ることがおわかりになったと思います。

尚、シャッター速度ダイヤルは必ずクリックに入れて下さい。速度目盛を中央の△白印に合わせクリックに入れないと正確な速度は得られませんから注意して下さい。 (第13図)



第13図



ピントの合わせ方

距離調節レバーを動かしながら、ファインダーの視野の中央に見える被写体の二重像を合致させます。

正確に焦点を合わせるためには、なるべく垂直のもの、例えば人物の場合には鼻や頬の線、あるいは眼鏡の縁などに合わせます。(第14・15図)



第14図



第15図



ファインダー



第16図

ワルツ・エンボイ M1.9は三窓ブライトフレーム(光棒)式ファインダーを採用していますので、ファインダー内が非常に広く、その写角より大きい窓にブラックのフレームが写し込まれており、フレーム内に見える被写体がフィルムに写し込まれます。

ファインダーの歪み正になっていますので、距離視差(パララックハミ)の心配がありません。(第16図)

● パララックス自動匡正とは……

近距離撮影の場合、ファインダーがレンズの位置より少し高いところにあるため、実際に写る被写体はファインダーを通して見た範囲より、少し下にずれています。これを近距離視差又はパララックスといいます。ワルツ・エンボイ M1.9 のファインダーは、レンズの写角とファインダーの視界とのずれを距離の移動と共に自動的に匡正する装置になっていますのでパララックスの起る心配は全くありません。

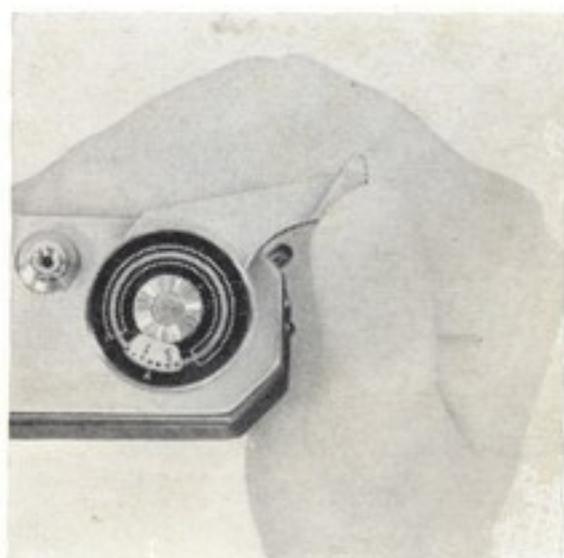


フィルム捲上げとシャッターセット

ワルツ・エンボイ M1.9 はセルフコッキング方式となっていますので、フィルム捲上げと同時にシャッターがセットされます。写真のようにカメラを手に持ち右拇指で捲上げレバーを止まるまで廻します。拇指を離すと捲上げは自動的に元に戻ります。これでフィルムが一枚送られ同時にシャッターがセットされたわけです。

(第17図)

尚フィルム・カウンターの数字は、撮影してフィルムを捲上げる度に自動的に 1・2・……・37 と動きます。



第17図

● カメラの構え方

35ミリカメラは、
ずかの
実にし、カメラを
くでは、35ミリカメラで美しい写真を撮ることは出来ません。

引伸倍率が大きくなるたう、わ
立つものですから、カメラの保持を確
焦点も確実に合わせるようにしな

カメラの構え方には三つの方法があります。



第18図

横位置の撮影の場合には、両手でカメラを持ち、左手の人さし指と中指とで距離調節レバーを動かし、右手の人さし指先だけで軽くシャッターボタンを押します。

(第18図)

此の際、両ひじをからだにぴったりとつけるのが、一番安定します。

縦位置の撮影の場合には、二つの構え方があります。



第19図

第一の方法は、カメラの上部を左にむけ左手で前方から持ち、カメラを顔の中央に置き、額と鼻をカメラに密着させ、左手でカメラをピッタリと頬に押しつけ、左ひじをからだにつけて、しっかりとカメラを保持し、右手は上方から軽くカメラを支え、人さし指をシャッターボタンに当てます。

(第19図)

この際、距離調節を行う時には、左手の人さし指と中指とを使います。

第二は左手を下にしてカメラをしっかりと握り、右ひじをからだにピッタリとつけて右拇指をシャッターボタンに当て、距離調節は左手の人さし指と中指とで行ないます。

(第20図)

縦位置撮影の時には、速写ケースの前蓋がレンズのじゃまをすることがありますから撮影の時には充分気をつけて下さい。ケースの蓋は取りはずすことができます。



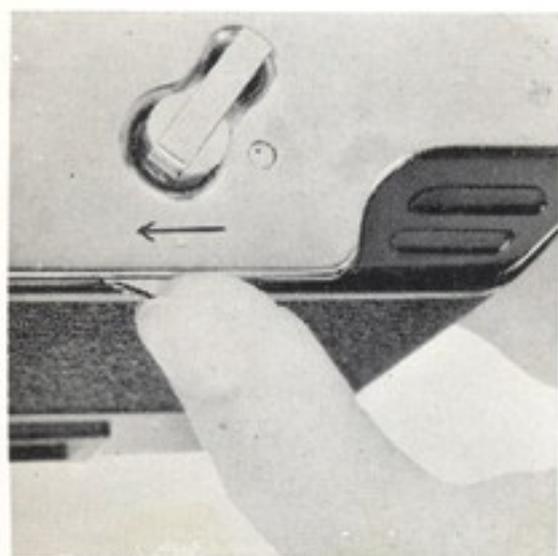
第20図



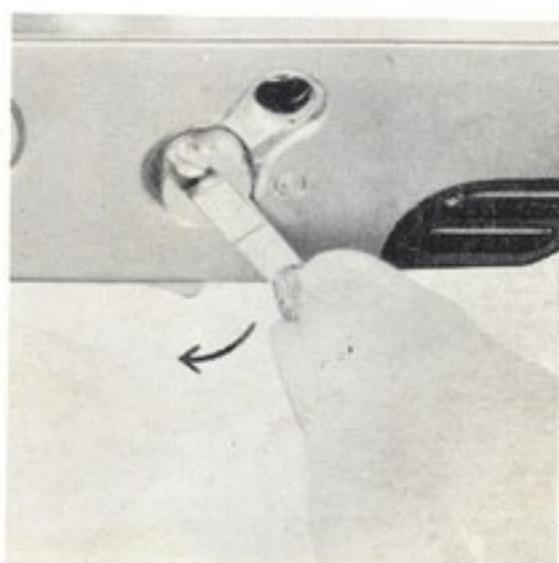
フィルムの取りはずし方

フィルムを全部写し終えますと、捲上げレバーが重くなりフィルムを捲上げることが出来なくなります。そこでカメラ下部にある捲戻しレバーを矢印の方向に押しますと、フィルム捲戻しクランクが飛び出します。クランクを起し右廻り矢印の方向に廻してフィルムを捲き戻します。フィルムが捲戻されている間、小さな音が聞えますがこの音がなくなりクランクの廻転が軽くなるとフィルムの捲戻しは完了します。捲戻しが終わりますと、裏蓋開閉レバーを引き上げフィルムを取り出して下さい。

(第21・22図)



第21図



第22図



シンクロ撮影の方法

閃光撮影の近代写真術における応用の範囲はきわめて広く、記念撮影、夜間スナップ、舞台撮影、昼間における補助光線など、微光下の撮影を可能にし、レンズの解像力を充分発揮させて、視覚的にも美しい写真を作ります。



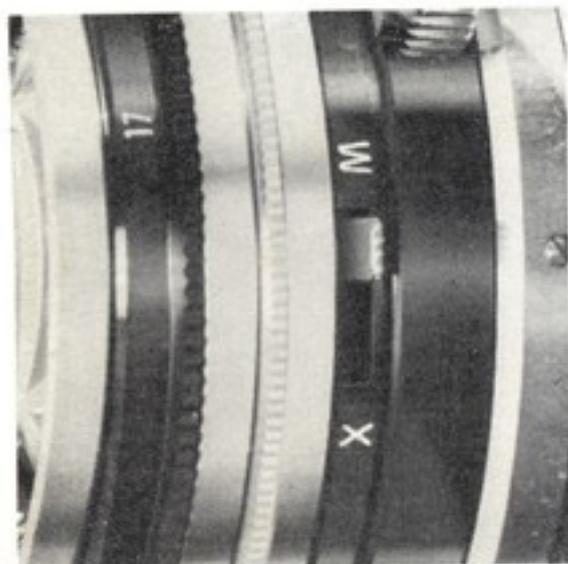
第23図

シンクロ撮影の妙味である一発シンクロのスナップを経験なされば、その素晴らしさに大いに魅せられることと思います。

ワルツ・エンボイM1.9には新鋭コバルSVLが付いており、M・X2点に切替えるシンクロ装置になっています。

一般に使用する閃光電球にはM級・F級の2種類がありますから、閃光電球の種類によって接点を使い分けて下さい。(第23図)

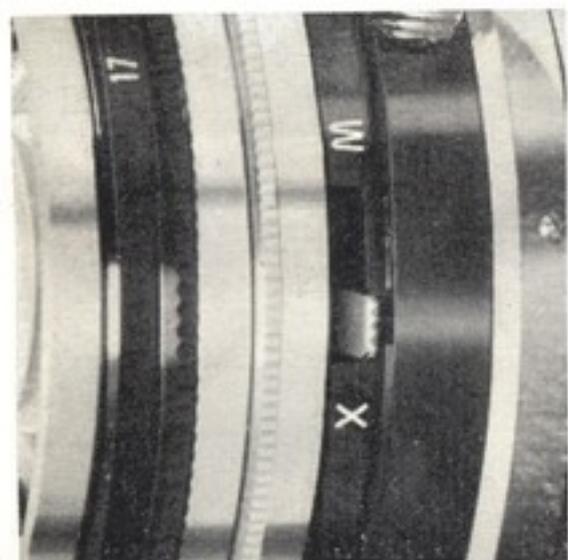
● M接点の使用法



M・X切替レバーをM印の方にセットします。M接点はワルツ・フラッシュマスター、エバーマスター等でM級閃光電球を使用すると、一番能率的に用いられ、シャッター速度は1秒から1/500秒まで全シャッター速度に完全同調いたします。(第24図)

第24図

● X接点の使用法



M・X切替レバーをX印の方にセットします。X接点は、スピードライトを使用して撮影する場合と1/60秒及びそれ以下の緩速度(但しFバルブ使用)でシンクロ撮影をする際に用います。スピードライトを使用する時は、シャッター速度は1秒~1/500秒まで完全同調します。

第25図

F級の閃光電球を使用される場合には、シャッター速度は1秒~1/60秒までは全部同調しますが1/125秒以上は同調いたしませんから御注意して下さい。(第25図)

閃光電球、切換レバー、シャッター速度の関係を表にすれば下記のようにになります。

フラッシュを使はない普通撮影の場合は切換レバーをXにセットして撮影して下さい。

	M・X切換レバー	シャッター速度
M級 バルブ	M	全速度
F級 バルブ	X	1秒 ~ $\frac{1}{60}$ 秒
スピードライト	X	全速度

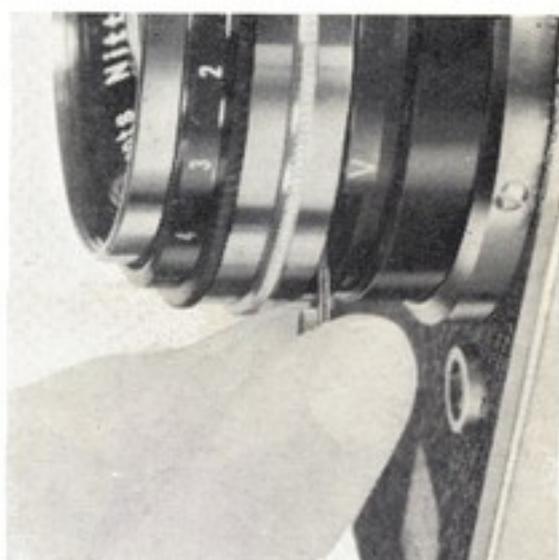


セルフタイマーの使い方

記念撮影などで自分も一緒に写りたい場合には、セルフタイマーを利用します。まずM・X切換レバーをX印の方に動かします。次にシャッターをセットして、セルフタイマー用レバーを向って左にいっぱい動かしてセットします。シャッター・ボタンを押せば約10秒間セルフタイマーが作動した後、自動的にシャッターが切れます。

尚セルフタイマーは、M接点では使用できませんから、御注意下さい。

(第26図)



第26図

又セルフタイマーを使用してシンクロ撮影をする場合には、接点をX印の方にセットします。ストロボを使用する場合には全シャッタースピードに同調し、F級の球を使用する時には1/60秒以下、M級の球を使用する際には1/30秒以下のシャッター速度に同調します。

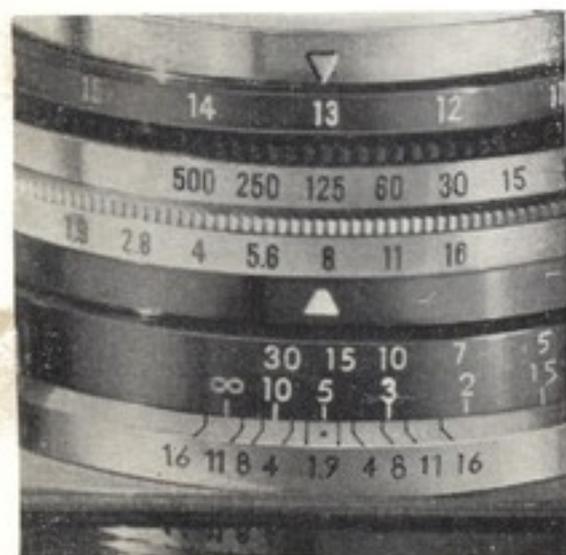


被 写 界 深 度

被写界深度はレンズ固有の性質で、一定の距離にピントを合わせて撮影した後、出来上がった写真を見ますと、その前後のある一定の範囲までピントが合っていることに気がつきます。このように、焦点を合わせた被写体を中心にして、ピントの合っている範囲を、そのレンズに関する被写界深度（焦点深度）といいます。そして被写界深度は次のように変化いたします。

1. レンズの絞りによって変り、レンズを絞れば絞るほど深度が深くなります。
2. 焦点を合わせる位置によって変り、近距離になるほど深度は浅く、距離が遠くになるにつれ深くなります。
3. レンズの焦点距離の違いによって変り、焦点距離が短かいほど深度は深く、長焦点レンズでは浅くなります。又深度は焦点を合わせた位置よりも遠方に深く手前に浅くなっています。
4. 被写界深度を利用することによって、正しくピントの合う範囲が直ちにわかり、上手な写真が写せます。

例えばワルツ・エンボイM1.9で距離2メートルにいる人物と5メートルにある建物を、ともに鮮明に写したい時には、絞りを11にして、距離を3メートルに合わせれば良いことがわかります。



第 27 図

スナップ撮影の時には、被写界深度を大いに利用すべきで、絞りを8にして距離を5メートルに合わせておけば、被写界深度目盛が示すように3メートルから10メートルのあいだに焦点が合っていますから、そのつと距離計を覗いてピントを合わせる必要がなく、そのまま迅速に連続スナップ撮影ができます。

(第27図)

被 写 界 深 度 表

S KOMINAR-W

1:1.9

F 48^{m/m}

絞り 距離	1.9	2.8	4	5.6	8	11	16
Meter	0.79	0.78	0.77	0.76	0.74	0.72	0.69
0.8	0.82	0.83	0.84	0.85	0.87	0.90	0.96
0.9	0.88	0.87	0.86	0.85	0.82	0.80	0.76
	0.92	0.93	0.94	0.96	0.99	1.03	1.11
1	0.98	0.97	0.95	0.93	0.91	0.88	0.83
	1.03	1.04	1.06	1.08	1.12	1.17	1.26
1.2	1.17	1.15	1.13	1.10	1.07	1.02	1.00
	1.24	1.26	1.28	1.32	1.37	1.45	1.60
1.5	1.45	1.42	1.39	1.35	1.30	1.24	1.14
	1.56	1.59	1.63	1.68	1.78	1.91	2.18
2	1.91	1.86	1.81	1.75	1.66	1.56	1.41
	2.10	2.16	2.23	2.34	2.53	2.80	3.43
3	2.79	2.70	2.60	2.46	2.29	2.10	1.85
	3.24	3.37	3.56	3.84	4.36	5.26	8.00
5	4.45	4.23	3.97	3.66	3.29	2.91	2.45
	5.71	6.12	6.76	7.87	10.44	17.61	∞
10	8.02	7.33	6.58	5.78	4.90	4.11	3.24
	13.29	15.74	20.87	36.93	∞	∞	∞
∞	40.42	27.43	19.20	13.71	9.60	6.98	4.80
	∞	∞	∞	∞	∞	∞	∞

(単位メートル)

距 離 換 算 表

Meter	0.82	0.91	1.22	1.52	2.13	3.05	4.57	9.14	∞
Feet	2.7	3	4	5	7	10	15	30	∞



レ ン ズ フ ー ド

ワルツ・エンボイ M1.9には、ワルツ・46mmネジ込レンズフードが、専用になっています。撮影時には、常にレンズフードを使用し撮影に必要な光線以外は、レンズに入れないようにしましょう。レンズフードを用いないと、フレアや、ゴーストイメジ、ハレーション等を起す原因になります。尚レンズフードは雨滴や雪片からレンズを保護しますから、まずおそろえになる必要があります。(第28図)



第 28 図

使用後レンズフードを取りはずした場合には、専用フードケースを御使用下さい。



フィルター

ワルツ・エンボイ M1.9には、ワルツフィルター・46%ネジ込が専用になっています。フィルターの役目は直接目で見た感じにひとしくすることであり、不要な光を吸収濾過することによって、必要な濃淡や色彩を再現し、理想の写真にする重要な役目を果します。その他色々な効果を生むために、四季を通じて欠くことの出来ないアクセサリーです。ワルツ・フィルターは性能品質優秀として、JIS・4316の規格合格品で、日本工業規格の保障を受け (JIS) のマークが入っています故、常に安心して御使用になれます。



フィルターなし



02 フィルター使用

ワルツ・フィルター品種

ワルツ・モノクローム用フィルター (各サイズ)

種類	色	露光倍数	フィルター効果		
一般	HAZE CUT A C アンバーコートテッド	1.0	紫外線を吸収し、ヘーズをカットするので、晴天時及び遠景や山・海岸・航空写真等の撮影に適し、画面を明快にする。その他、露光倍数が不用なので撮影レンズの保護に常用出来て重宝です。		
	wUV			微黄	
	wY1	淡黄		1.5	快晴に限らず、曇天や霧・日蔭等の場合でも、紫外線や青色系の光を吸収し、緑、黄、橙、赤色系の光を透過させるので、フラットになるのを防ぎ冴えた調子が得られる。一般整色撮影に最適。
	wY2	黄			
整色	wYG	黄緑	2.0	紫外線及び藍や青色系と赤色系の一部を吸収し、緑、黄色系の透過率が良いので被写体の明暗が視覚に近くなり自然の描写が得られる。特に静物やポートレート撮影では優れた効果があります。	
	wG	緑	2.5	紫外線及び藍や青色と橙、赤色系の過半数を吸収し、緑、黄系の色を比較的多く透過させるので緑色や黄色がかったものは明るく描写され青色や赤色系のものは濃く描写されます。	
	wB	青	1.5	人工光撮影では赤、橙、黄色系は感じ易く白っぽく写ります。ブルー・フィルターはそれらの光を吸収抑制するので、電灯光やフラッド、フラッシュ撮影等に使用すると自然の色彩明暗描写が得られます。	
強調	wY3	濃黄	2.0	Y1、Y2よりも青色系の吸収率が良く、一層の強調効果が得られるコントラスト・フィルター。風景撮影に使用し、青空を暗くし雲を浮き出させ、緑、黄、赤色系等は明るく強調されます。	
	wO1	橙	2.0	紫外線及び青や緑系の光を吸収し、黄、橙、赤系の光を透過させるので青緑系の色は暗く黄や赤色系は明るく浮き立つ。遠景の強調撮影に適し、又木石及び建築物、彫刻等の地肌を克明に描写する。	
	wO2	濃橙	2.5		
	wR1	赤	3.5	典型的な強調フィルターで、藍、青、緑色系は暗く、黄、橙、赤色系を白っぽく描写する。その他晴天の戸外で露出不足撮影を行うと凝似夜景の効果が出る。又赤外撮影に用い一層の効果を得る。	
	wR2	濃赤	5.5		
モノクローム用コートテッド・フィルターも上記と同じ種類があります。					

ワルツ・カラーフィルターキットD (各サイズ)

デイライトタイプ (基準色温度 約6000°k)

カラー・フィルム用フィルター (昼光用)

種類	色	露光倍	色温度変換	フィルター効果
晴天用 (スカイライト)	薄ピンク	1.0	(紫外線と青光一部) 吸収	画面が青みがかかるのを防ぎ、自然の色調を整える。
曇天用	薄茶	1.2	7500°k → 6000°k	色温度を下げて、画面の青味を防ぎ自然の色調を整える
早朝・夕方用	淡青	1.6	5000°k → 6000°k	色調が黄赤がかかる故色温度を上げ、自然の色調を整える。
フラッシュバルブ用	青	2.4	3800°k → 6000°k	フラッシュやフラッドの光は、一般に色温度が低いので、色温度を上げ画の色調を整えると自然の描写が得られる。
フラッドランプ用	濃青	3.2	3200°k → 6000°k	

タンダステンタイプ (基準色温度約3400°k) カラー・フィルム用フィルター

デイライト (A)	淡茶	2.2	6000°k → 3400°k	人工光用カラーフィルムで日中撮影の際に使用する。
-----------	----	-----	-----------------	--------------------------

一般にフィルターによって、吸収された色光は濃く、透過された色光は明るく描写される。

ワルツ・特殊フィルター (各サイズ)

ワルツNDフィルター (NEUTRAL DENSITY FILTER)

種類	露光倍数	透過率	使い方
wND 2X	2.0	50%	レンズの透過光量を制限調節するフィルターで、フィルムの色彩感を乱さず透過光量を抑制します。光量の豊富な被写体及びその他により露光過度になるのを除け、適正な露光を得るために使用する。
wND 4X	4.0	25%	
wND 8X	8.0	12.5%	

ワルツ偏光フィルター (POLARIZING FILTER)

青空からの光線や、水面、鏡、ガラス等非金属表面からの偏光状態になった反射光を遮断する。

使い方：偏光フィルターの枠にある赤マークを上にし、フィルターを通して被写体を見ながら、フィルターを左右に廻しその廻転によって反射光が最も少なくなった時、又、青空の調子が希望する程度に落ちた時、その状態のまま、赤マークを指標としレンズへ装着して撮影する。

カメラ取扱上の注意

カメラは精密機械でありますから、できるだけ大事に扱わねばなりません。大事にすることばかり考えて雨の日、雪の日、または海岸などで使わずにしまっておいては、カメラの使命は半減いたします。

そこでカメラを活用するためには、御使用後の手入れが大切になって参ります。

カメラを使用しない時は、必ずレンズキャップをはめて、埃や湿気からレンズを保護して下さい。そしてレンズの埃は、レンズブラシ又はレンズふきで軽く拭くようにして下さい。これは写真用光学ガラスが普通の一般ガラスに比べ非常に柔らかいので、傷がつき易いからです。また手入れのつもりや、興味本意でレンズを分解したり、シャッターの内部に触れたりすることは絶対に止めましょう。これは調整したレンズの描写力を狂わせたり、思いがけない故障を引き起す原因になります。フィルム面の傷を防ぐため、時々カメラ内部を筆か刷毛で払って下さい。

カメラが何等かの事故で故障を起した時は、信用あるカメラ店か弊社まで御送り下さい。シャッターをセットしたまま長時間おくことは、シャッターに悪影響をあたえますから、必ずシャッターを最後に切るように習慣付けて下さい。

カメラを長期の間保存される時は、カメラを皮ケースから出して、湿気のない乾燥した場所（タンス・桐箱等）に別々に入れて置きましょう。

いつも美しいカメラを持つために、金属部は綿布などでレザー部分はシリコンクロス、又は鹿皮などで軽く拭いて下さい。

■ サービスについて

御満足な点はお友達え……………

御希望の点はワルツ・サービス係え……………

☆ワルツ・エンボイM1.9は皆様に御買上げいただいた日より向う3年間の保障をいたします。自然に破損、故障を生じた場合には一切無料にて修理いたします。

☆カメラ化粧箱の中に入っている御愛用者カードは、所要事項を御記入の上、10日以内に本社宣伝課宛御送り下さい。

☆御返送いただく御愛用者カードにより台帳に記載、折返し登録書・保証書を御送り致します。修理の時、又は今後の通信連絡、或は万一の盗難時に役立ちます。

☆万一故障の場合、地方の方は登録番号を御明記の上、下記弊社サービス係又は最寄りの各出張所宛御送り下さい。

本社サービス係

東京都中央区日本橋室町一ノ一八

大阪出張所

大阪市南区横堀七ノ八

名古屋出張所

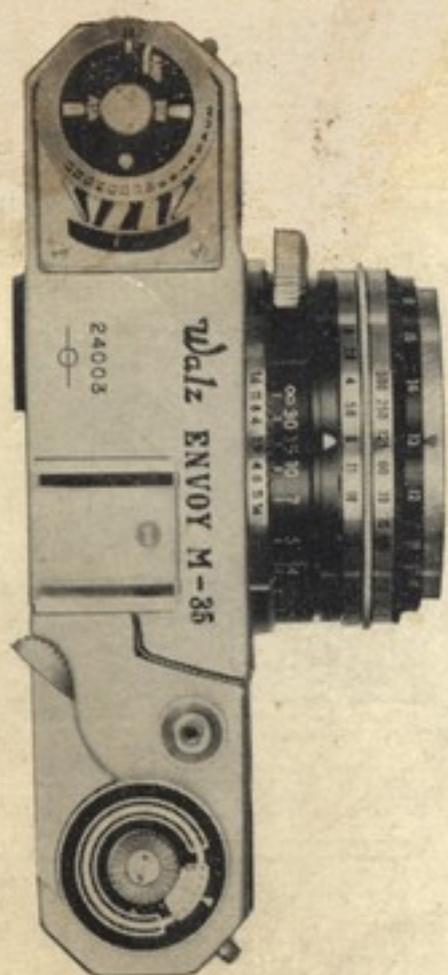
名古屋市中区住吉町三 住吉ビル

福岡出張所

福岡市蓮池町二六ノ二 善導ビル

☆東京・本社サービス係は皆様のカメラの修理とあらゆる技術上の御相談をうけたまわっております。手紙又は電話にても遠慮なく御利用下さい。

☆御愛用者皆様の作品発表、親睦機関として「ワルツ・カメラクラブ」を組織し、機関雑誌「フォト・ワルツ」を発行して、作品指導など行っていますのでなにとぞ御入会下さい。



Walz

株式会社 **ワルトツ**

本社 東京都中央区日本橋室町1-18
 大阪出張所 大阪市南区横堀7丁目8番地
 名古屋出張所 名古屋市中区住吉町3住吉ビル
 福岡出張所 福岡市蓮池町23-2 善導ビル

